

3 野菜摂取量と食塩摂取量に関する市町村比較の考え方

本調査における野菜摂取量および食塩摂取量は、食事歴法（最近1か月の食習慣に関する自記式質問票）の課題である申告誤差の縮小を図るためエネルギー調整した値であることから、市町村別に示した摂取量は、あくまで食事の「傾向を比較する」ための値である。そのため、野菜摂取量を市町村別に多い順にランキングしても順位が正しいとは言えない。そこで、市町村比較をわかりやすくする方法として、県全体の性別中央値を基準（= 100）とした相対値を用いて、各市町村の野菜および食塩の摂取量が、県内において多いのか、少ないのかを、散布図(*)を用いて可視化した。

ただし、人口規模の小さい町村の結果は、解析対象者の人数が少なく不安定なため、本結果を基に摂取量が多い・少ないと判定することは困難であり、参考程度に留めるべきである。

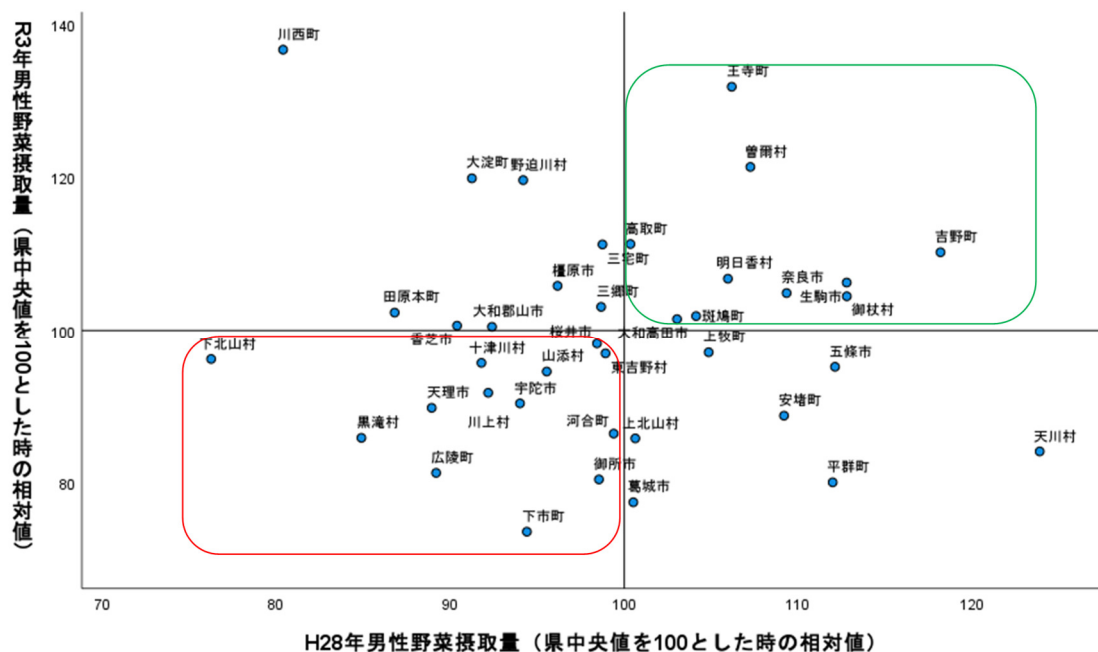
(*) 奈良県立医科大学県民健康増進支援センター作成

【参考1】～【参考6】(45～47ページ)

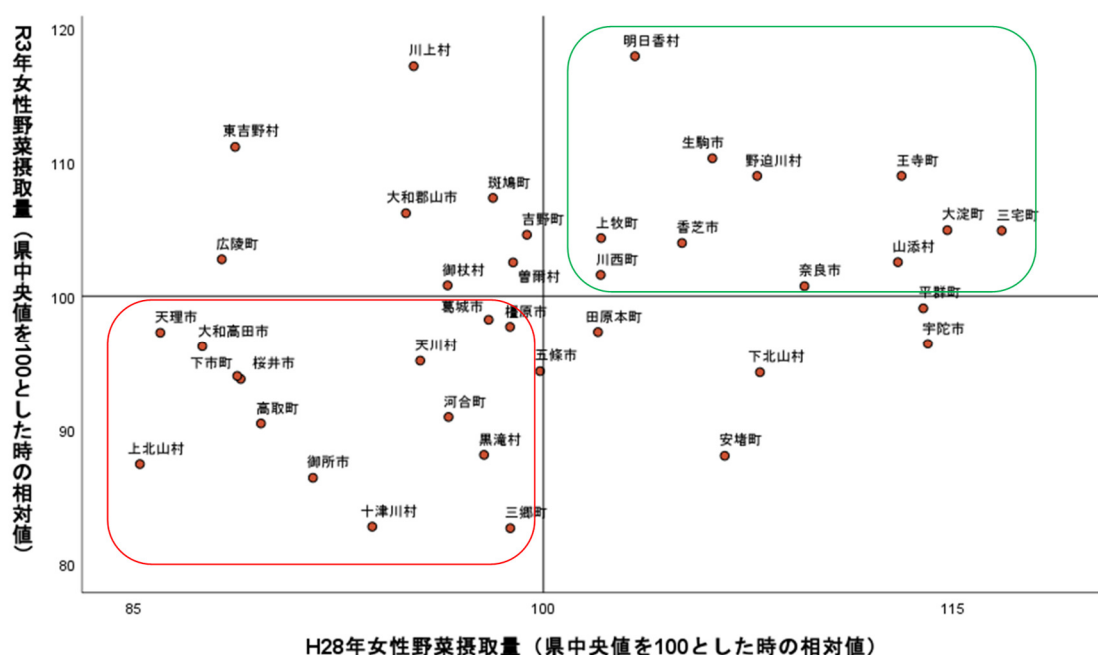
(1) 野菜摂取量に関する市町村比較

野菜摂取量の県全体の性別中央値を基準 (= 100) とした相対値を用いて、各市町村の前回調査 (平成28年) の値をX軸に、今回調査 (令和3年) の値をY軸にプロットした散布図を性別に示す。この散布図の右上のグループは前回調査も今回調査も県内では比較的野菜摂取量が多い市町村である。一方、左下のグループは前回調査も今回調査も県内では比較的野菜摂取量が少ない市町村である。

【参考1】野菜摂取量の県中央値を100とした時の相対値 (男性)



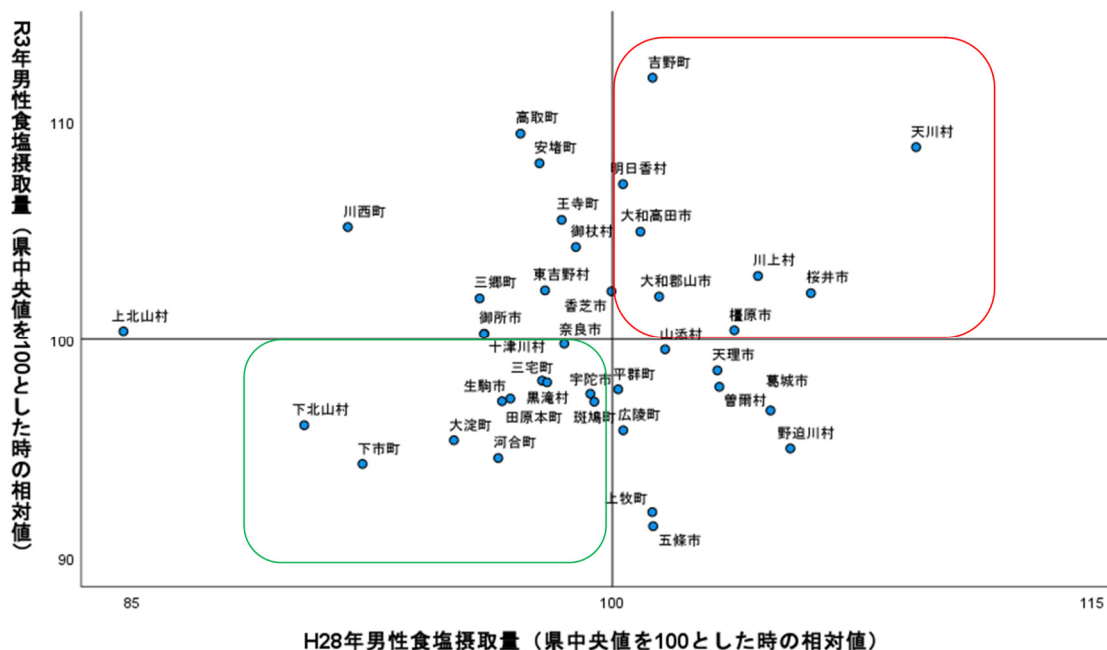
【参考2】野菜摂取量の県中央値を100とした時の相対値 (女性)



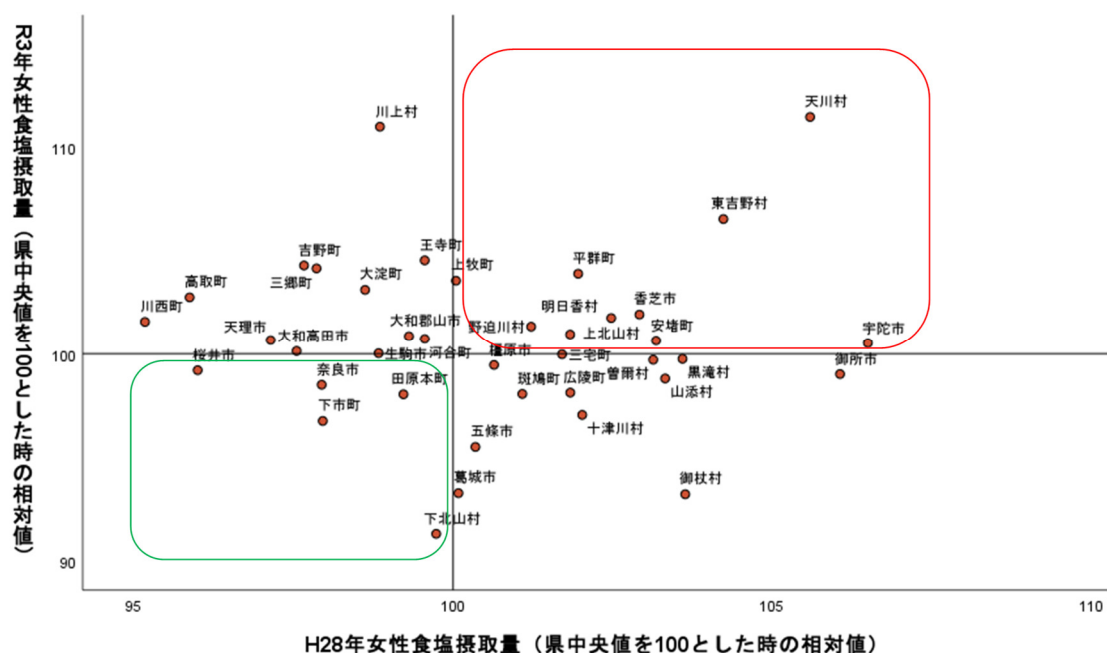
(2) 食塩摂取量に関する市町村比較

食塩摂取量の県全体の性別中央値を基準 (= 100) とした相対値を用いて、各市町村の前回調査 (平成28年) の値をX軸に、今回調査 (令和3年) の値をY軸にプロットした散布図を性別に示す。散布図の左下のグループは前回調査も今回調査も県内では比較的食塩摂取量が少ない市町村である。一方、右上のグループは前回調査も今回調査も県内では比較的食塩摂取量が多い市町村である。

【参考3】食塩摂取量の県中央値を100とした時の相対値 (男性)



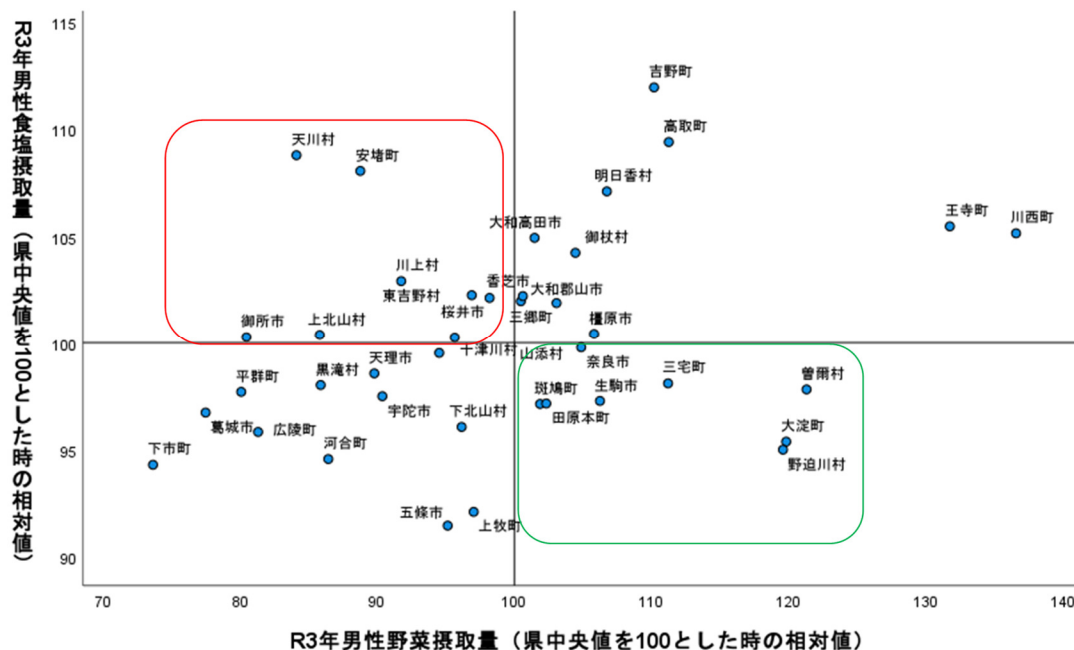
【参考4】食塩摂取量の県中央値を100とした時の相対値 (女性)



(3) 今回調査の結果に基づいた野菜摂取量と食塩摂取量に関する市町村比較

県全体の性別中央値を基準 (= 100) とした相対値を用いて、令和3年の野菜摂取量をX軸に、令和3年の食塩摂取量をY軸にプロットした散布図を性別に示す。散布図の右下のグループは県内では比較的野菜摂取量が多く、食塩摂取量が少ない市町村である。一方、左上のグループは県内では比較的野菜摂取量が少なく、食塩摂取量が多い市町村である。

【参考5】野菜摂取量および食塩摂取量の県中央値を100とした時の相対値（男性）



【参考6】野菜摂取量および食塩摂取量の県中央値を100とした時の相対値（女性）

